

“V＋着”と〈V＋テイル〉の対照研究(九)

時 衛国

要 約

本研究从对比语言学的角度对汉语的“着”和日语的〈テイル〉进行考察，旨在分析二者在描写动态和静态时的用法及其语法特点，以此阐明二者的相同点和不同点。

“着”不能单独表示动态和静态，但借助于其它语句可以描写多样的持续状态。它虽然有使用限制，没有独立性，但可以描写正在进行的动态和静态，还可以描写感觉性的状态、形状及恒常性的现象，具有很强的描写性。

〈テイル〉在语法上拥有独立性，可以单独描写正在进行的动态和静态，不太受语义限制，但不能用于表示感觉性的状态、恒常性的现象及性状，它只限定动词，不能限定形容词。

キーワード：動的状態 静的状態 描写 独立性 多様性

1. はじめに

本研究は、中国語の“V＋着”と日本語の〈V＋テイル〉¹⁾の文法的機能などについて、動的状態・静的状態の描写に用いられた場合の諸用法を中心に考察しようとするものである。

本研究では、“V＋着”と〈V＋テイル〉にはどのような共通点と相違点を持っているのか。以下の四つの課題を中心に取り上げることとする。

一、“着”と〈テイル〉は運動と変化の持続について、それぞれどのように用いられ、またどのような文法的特徴を持っているのか。また共起制限があるかどうか。両語の意味と用法について深く考察する。

二、静的状態を捉える場合、この二語は、どのような用法があり、文法的

にはどのような制限を受けているのか。語句の意味による制限を受けるとすれば、どのような制限を受けているのか。

三、感覚的な状態を表現することができるのかどうか。感覚的な状態を描写する場合、“着”と<テイル>は、どのような文法的機能を持っているのか、またそれはなぜなのかについて考察する。

四、性状の状態を捉える機能が付与されているのかどうか、両語は形容詞を直接に捉えるのか、間接に捉えるのか、両語と形容詞との関係を取り上げることとする。

2. 先行研究

“着”については、李臨定(1985・1986)、陈平(1988)、徐丹(1992)、戴耀晶(1994・1997)、菅谷有子(1996)、刘一之(2001)、金立鑫(2004)、王学群(2007)、高橋弥守彦(2007)、张黎(2012)、三宅登之(2013)などの研究があるが、本研究のテーマに関する研究は少ないようである²⁾。

<テイル>については金田一春彦(1950)(1976)、奥田靖雄(1977)、仁田義雄(1982)、寺村秀夫(1982・2003)、工藤真由美(1982)(1995)、益岡隆志(1987)、中畠孝幸(1999)、吉川妙子(2012)などの研究がある。これらの研究は主として「主語+目的語+V+テイル」という能動表現について考察しており、参考になるものであるが、<テイル>の能動表現、受動表現における動的状態・静的状態の描写の文法的機能の独立性については、特に考察した論考は未見である。また、本研究で取り上げた<テイル>のその他の用法に関する先行研究もあまり見られない。

3. 分析

3. 1. 運動と変化の持続

3. 1. 1. “着”

“着”は動的状態と静的状態の持続を表現することができるが、それだけでは、発話者が捉えた時点における進行中または進行の最中にある動的状態と静的状態のいずれも捉えることができない。“着”は進行中のときの動作・行為などを捉えることができないからである。たとえば、

(1) ??列车运行着。(列車が運行している) 3)

(2) ??病状恶化着。(病状が悪化している)

“着”は、(1)では、列車が運行しているという動的状態を描写することができない。また、(2)では病状が悪くなっているという静的状態についても捉えることができない。“着”には進行中または進行の最中にある状態を捉える文法的機能が付与されてないため、それだけでは動的状態と静的状態を描写することができないのである。それは、“着”が文法上の独立性を持っていないことに起因しているものと考えられるからである。進行中または進行の最中にある動的状態と静的状態を表現する時には、進行中または進行の最中を表わす副詞“正”“在”“正在”と共起しなくてはならない。

“正”は“正+動詞”の形で、“我们正吃饭(私達はご飯を食べているところだ)”“他们正商量(彼らは相談しているところだ)”のように、発生している動作・行為を修飾することができる⁴⁾。“在”は“在+動詞”の形で、“我们在吃饭(私達は食事をしている)”“他们在商量(彼らは相談している)”のように、ある時間帯から行なわれている動作・行為或いはある時点から行なわれている動作・行為を表わすことができる。そして、“正在”は“正在+動詞”の形で“我们正在吃饭(私達はご飯を食べている最中だ)”“他们正在商量(彼らは相談している最中だ)”のように動作や行為などが進行中であることを表わすことができる。

“着”は“正”“在”“正在”と共起して、それぞれ“正+動詞+着”“在+動詞+着”“正在+動詞+着”の形で、進行中または進行の最中にある動作・行為を表現することができる。たとえば、“我们正吃着饭”の場合は、発話者が捉えた時点における動作の持続を表現している。“我们在吃着饭”の場合は、少し前から行なわれている動作が現在という時間帯にも持続中であることを示している。一方、“我们正在吃着饭”は、発話者が捉えた時点における動作の持続を表わしている。

“着”は“正”“在”“正在”と共起すれば、ある時間帯における動的状態と静的状態の持続を表現することができる。このことから考えると、以下の

二点が分かってくる。一つは、“着”は動的状態と静的状態を捉えることはできるが、それだけでは時間的範疇を表現することができないということである。もう一つは、“着”はそれだけでは進行中または進行の最中の動作・行為や状態を捉えることができないため、文法上の独立性が獲得できないという点である。つまり、“着”は時間的範疇を表現できないため、“正”“在”“正在”と共に、ある特定の時間帯またはある時点から現在までの間という時間的範疇を設定することによって、はじめてその時間帯や時点の動的状態と静的状態の持続を表現することができる。時間設定のないままの場合は、表現としてどの時間的な枠内で動作・行為が持続するのかを想定できないため、不適切なのである。“着”は文法上の独立性が認められないという点から、共起制限を持っていると言える。

3. 1. 2. <テイル>

<テイル>は、動的状態と静的状態を捉えることができるという点では、“着”とはほぼ同じであるが、時間的範疇を持っているため、発話者が捉えた時点における動的状態と静的状態の持続をそれだけで表現することができるという点では、“着”とは異なっている。

(3) 列車が運行している。

(4) 病状が悪化している。

<テイル>は、(3)では、現在走行中の列車の姿を表現しているが、(4)では、病状が悪いほうに向かっているという現状を描写している。運行しているという動的状態と悪化しているという静的状態の持続をそれだけで表現することができるという点では、“着”と全く違っている。<テイル>と“着”の根本的な相違は、文法上の独立性の有無にあり、それによる文法的機能の発揮にある。<テイル>はその語形によって時間的範疇をも示し、発話者が捉えた時点での動作・行為や状態の持続をその時点において表現している。他の語句に助けを借りずに、進行中または進行の最中をそれだけで表現することができるという点では、著しい文法的特徴と言わなければならない。

<テイル>は“着”と同じように、現在進行中を表わす副詞との共起も許容されている。たとえば、「只今列車が運行している」「正に列車が運行している」「今病状が悪化している」「正に病状が悪化している」などがそれである。これらの時間を表わす副詞と共起する場合は、現在進行中或いは進行の最中にある動作・行為や状態の持続を明確に表現することができる。一方、それらと共起しない場合は、現在進行中或いは進行の最中にある動作・行為や状態の持続も表現することができる。<テイル>が時間的範疇を示し、現在進行中或いは進行の最中にあることをそれだけで表現できるからである。

日本語では、未来の動作・行為は<スル>で表現し、現在の動作・行為は<テイル>によって表現することになる。そのため、<テイル>はそれだけで現在進行中或いは進行の最中の動的状態と静的状態を捉えることができる。つまり、共起制限を持っておらず、それだけでその文法的機能を発揮することができるし、文法上の独立性が認められているということである。この点では中国語の“着”とは根本的に異なっている。

3. 2. 静的状態の持続

3. 2. 1. “着”

“着”は、静的状態の持続を表現し、多様な状態の姿を描写することができるという点では、<テイル>と共通しているが、語句の意味による制限を受け、センテンスの成立にも影響されているという点ではそれと違っている。

- (5) 街道笼罩着晨雾。(街道に朝の霧が立ち込めている)
- (6) 晨雾笼罩着街道。(朝の霧が街道を覆っている)
- (7) 街道被晨雾笼罩着。(街道が朝の霧に覆われている)

“着”はいずれも存在表現、能動表現、受動表現に用いられ、静的状態を捉えることができる。(5)では、存在表現として、街道に朝の霧が立ち込めているという状態を捉えている。(6)では、能動表現として、朝の霧が街道を取り囲んでいるという状態を捉えている。(7)では受動表現として街道が朝の霧に包まれているという状態を捉えている。“笼罩(包む)”“覆盖(覆う)”“弥漫

（一面に広がる）“晒（晒す）”“盖（覆い隠す）”“蒙（被る）”“罩（覆う）”“掩盖（覆い隠す）”などのような動詞は、静的状態の表現に用いられ、“着”との共起も必要になってくる。

“着”は静的状態の持続を表現する助詞として、これらの動詞の表現している静的状態を描写することになる。もし、“着”が使われていない場合は、“??街道笼罩晨雾（「街道が朝の霧を立ち込める」の意）”“??晨雾笼罩街道（「朝の霧が街道を覆う」の意）”“??街道被晨雾笼罩（「街道が朝の霧に覆われる」の意）”のように、実際に存在している状態ではなく、想像したり予想したりした状態のイメージとなるため、自然な表現とは言えないのである⁵⁾。(6)と(7)は、主語と目的語を互いに置き換えることが可能であり、たとえば、(6)における街道は主語として用いられているが、(7)においては目的語として用いられている⁶⁾。これらの動詞は静的状態を表わすため、意味的には持続を表現するための“着”との共起が要求されているからである。

一方、“着”は“挤满（ぎっしり）”“充满（充滿する）”“布满（いっぱい）に散らかっている”“聚满（いっぱい集まっている）”“洒满（一面に散らかっている）”“铺满（敷き詰める）”“飞满（いっぱい）に飛ぶ”“开遍（いっぱい）に咲きこぼれている”“掉尽（すっかり落ちてしまう）”などの動詞を捉えることはできない。たとえば、

(8) a*会场里挤满着人。（「会場に人が立て込んでいる」の意）

b 会场里挤满了人。（会場に人が立て込んでいる）

(9) a 天空布满乌云。（空に黒い雲が満ちている）

b*天空布满着乌云。（「空に黒い雲が満ちている」の意）

c 天空布满了乌云。（空に黒い雲が満ちている）

“着”は(8)aと(9)bでは、“挤满”と“布满”を捉えることができない。“挤满”“布满”のような動詞は、静的状態の描写に用いられているが、その状態には極限的な意味が内包されているため、実現を表わす助詞“了”と共起することになる。“了”は実現した状態を描写するのに用いられ、点的な存在を結果として表わしている。たとえば、(8)bと(9)cは“了”が用いられている

ため、その極限的な状態を表現することができる。この点から考えると、“着”は相対的な性格を有する静的状態を主な対象として捉え、極限的な意味が内包された状態を捉えることができないことになる。“着”は静的状態を線的な存在として描写するだけにとどまり、極限に達した状態を描写することができないからである。この点は“着”と“了”の違いと言える。このように、“着”は語句の意味による制限を受け、相対的な性格を有する静的状態であれば捉えることができないという文法的特徴を持っている。

3. 2. 2. <テイル>

<テイル>は、存在表現、能動表現、受動表現に用いられ、静的状態を捉えることができるという点では、“着”と共通している。

- (10) 街道には朝の霧が立ち込めている。
- (11) 朝の霧が街道を覆っている。
- (12) 街道が朝の霧に覆われている。

(10)では存在表現として、街道に朝の霧が立ち込めているという状態、(11)では能動表現として、朝の霧が街道を包んでいるという状態、(12)では受動表現として、街道が朝の霧に包まれているという状態を表わしている。静的状態の持続を描写することができるという点と存在表現と能動表現と受動表現において主語と目的語が置き換えられるという点では、中国語の“着”と全く同じである。

ところが、<テイル>が用いられない場合を考えると、その場合も、それぞれ存在表現・能動表現・受動表現として成立することができるという点では日本語は中国語と異なっている。たとえば、「街道には朝の霧が立ち込める」「朝の霧が街道を覆う」「街道が朝の霧に覆われる」などのように、<テイル>が使われてない場合はその静的状態は描写することができないが、センテンスとしては成立するのである。日本語では(10)(11)(12)のように持続している状態でも、「街道には朝の霧が立ち込めた」「朝の霧が街道を覆った」「街道が朝の霧に覆われた」のように実際実現した状態でも、予想したり想像したりした

結果の状態でも成立するという点では、中国語と大いに異なっている。〈テイル〉が使われていなくても、存在表現・能動表現・受動表現の成立には影響を及ぼさないという点では、“着”と対照的である。また、(13)(14)のように充満の意味を表わす動詞を捉え、その静的状態の持続を描写することができて、その動詞の意味に制限されるようなことがないという点においても、“着”とは大きく違っている。たとえば、

(13) 会場に人が立て込んでいる。

(14) 空に黒い雲が満ちている。

などがそれである。

ここから考えると、〈テイル〉は広い視野があり、静的状態を捉える強い文法的機能が確立されているし、如何なる静的状態も描写できるため、その文法的機能の範囲が広く設定されているものと考えられる。

3. 3. 感覚的な状態の評価

3. 3. 1. “着”

“着”は、動作・行為を表わす動詞を捉え、感覚的な状態の評価に用いることができる。たとえば、

(15) 这座公寓住着舒服吗？（このマンションは住み心地がいいですか）

(16) 这件衣服穿着不舒服。（この服は着心地が良くない）

(17) a 说着容易做着难。（言うのはたやすいが、行なうのは大変だ）

b 说容易做难。（言うのはたやすいが、行なうのは大変だ）

“着”は、“住”“穿”“看”“听”“闻”“拿”“用”“坐”“躺”“吃”“喝”などの動詞と共に起る場合は、“着”は“動詞＋着＋形容詞”という構造で、主観的にその動作を捉え、その心情を評価することができる⁸⁾。(15)は居住しているマンションの住み心地、(16)は身に付けている服の着心地を表わし、それなりに評価している。これらの動詞は動作・行為を表わす動詞として動

的状態の表現に用いられているが、“着”と共起すると、それぞれ感覚を表わすようになるため、いずれも静的状態を表わすようになるということである。

“動詞＋着”はこの構造の中で、述べられる対象として用いられ、いずれも静的状態を表わしている。この点は、“他正在穿着衣服（彼は服を着ているところだ）”“他们正吃着饭（彼は食事をしているところだ）”などのような動的状态の表現における“着”の意味とは異なり、静的状態としての心情を表わすということが大きな特徴である。つまり、“着”は、動作・行為を動的状态ではなく、静的状態として捉えることができる。その原因は、その文法的構造における形容詞の存在にあり、“動詞＋着”は説明されたり評価されたりする対象として用いられているからである。この点については、従来の研究ではあまり述べられていない。

“着”は恒常的な事象を捉える文法的機能が付与されているため、二つの関連の動作を捉えることができる。たとえば、(17)a では、動的状态を表わす“说”と“做”を捉えている。“说”と“做”は対立した行為であり、前者は主張することを口にするという行為であるのに対し、後者はやり方を実践するという行為である。そのままでも(17)bのように恒常的な事象を表現することはできるが、その動的状态の持続を描写することはできない。そして、“着”が用いられた場合は、“说”という行為と“做”という行為の静的状態としての持続を描写することができる。つまり、“着”は言うという行為と行なうという行為を静的状態として捉え、その感覚全体を恒常的な事象として描写できるということである。“着”は未来実現できそうな事象を捉えることができるため(石毓智(2006)では言及している)、言行の持続の有効性を示唆しているものと考えられる。

3. 3. 2. <テイル>

<テイル>は、感覚的な状態の評価には用いることができない。<テイル>は静的状態を捉えることができるが、(18)a と(19)a におけるような感覚的な状態を捉えることができない。

(18) a このマンションは住んでいて気持ちがいいですか。

- b このマンションは住み心地がいいですか。
- (19) a この服は着ていて気持ちが悪くない。
- b この服は着心地が悪くない。

「住んでいる」「着ている」「穿いている」「乗っている」「寝ている」「座っている」などのような表現では、静的状態を描写できるが、発話者の感覚を表わすわけではない。日本語では、〈テイル〉は「動詞+テイル」という構造を取る場合、「住んでいて」「着ていて」「穿いていて」「乗っていて」「寝ていて」「座っていて」などのような形で表現されても、静的状態を描写するだけで、感覚的な状態を表わすことにはならない。〈テイル〉の文法的機能は強いが、感覚的な状態までを射程に入れることはできない。この点では“着”とは完全に異なっている。

日本語では、感覚的な状態を表わす場合は、〈テイル〉によって表現するわけではなく、(18)bと(19)bのように、「動詞連用形+心地」という複合語によって、感覚のよし悪しを表現することになる。このような表現は、また「その車は乗り心地が良い」「このベッドは寝心地が良い」「このソファは座り心地がよい」「夢心地がよい」「今日は酔い心地がよい」「旅心地がよくない」「この部屋は居心地がよい」などがある。感覚的な状態は複合語によって表現されるという点では中国語と違っている。〈テイル〉の文法的機能は静的状態の把握に止まり、感覚的な状態を表現する機能までには拡張されることにはならない。この点は“着”と全く異なった点である。

〈テイル〉は、また、恒常的な事象を捉えることができないという点では、“着”と違っている。たとえば、

- (20) a *言っているのはたやすいが、行なっているのは大変だ。
- b 言うのはたやすいが、行なうのは大変だ。

日本語では、動詞がそのまま恒常的な事象を表現するのに用いることができるからである。たとえば「言うのはたやすいが、行なうのは難しい」という言動の難易を表現することができる。ところが〈テイル〉が用いられた場合

は、発話者が発話した時点において進行中または進行の最中の動的状態を表わすことになるため、恒常的な事象を表わす表現としては不適格となる。言うことと行うこととは対蹠的な関係にあり、論理的な難易が存在する。〈テイル〉は対蹠的な関係にある恒常的な事象を捉えるための文法的機能が付与されていないため、(20)a のようにその事象の持続を描写することができない。だが、対蹠的な関係にない場合は、「言っていることがおかしい」「言っていることが多い」「行っていることは山ほどある」などのように、言行の効力を示すことができるという点では、“着”に酷似しているところもある。

3. 4. 性状の持続

3. 4. 1. “着”

“着”は、形容詞を捉え、属性の状態の持続を描写することができる⁹⁾。たとえば、

(21) 他比我高着十公分。(彼は私より十センチくらい背が高い)

(22) 这双(鞋)比那双(鞋)大着一个号。(この靴はその靴よりサイズが一つ大きい)

“着”は、形容詞を捉える場合、“*他比我高着”“*这双鞋比那双鞋大着”のように、それだけでは表現として成立しない。その状態を反映する内容が不十分だからである。そのため、その状態に含まれた具体的な数字や数値が必要になってくる。その数字や数値を表わす語句がなければ、属性の状態を示すことができない¹⁰⁾。“着”が使われない場合は、“他比我高十公分(彼は私より十センチくらい背が高い)”“这双鞋比那双鞋大一个号(この靴はその靴よりサイズが一つ大きい)”のように表現としては成立するが、その状態の持続は表現することができない¹¹⁾。このように、“着”によって属性の持続を描写できるという点が、中国語の大きな特色を示していると言える¹²⁾。

“着”はさらに連用修飾語としての状態の描写にも用いることができる。たとえば、

- (23) 快着点儿 (说)。(早く (言う))
 (24) 慢着点儿 (走)。(ゆっくり (歩く))

では、“着”は“快”と“慢”という形容詞を捉え、その状態を描写することによって、述語や連用修飾語としての機能を果たしている。“着”が使われない場合は、“快说”“慢走”のように命令的な表現となり、硬い印象を受ける。“快着”“慢着”のように用いられる場合は、やや柔らかいものの依然として催促がましい表現になっている。一方、“快点儿说”“慢点儿走”のように表現する場合は、量的語句としての“点儿”が表現に相対性をもたらしているため、婉曲的な命令や依頼・催促などの表現として用いられているが、ただし“快”と“慢”の状態は描写することができない。そして、“快着点儿说”“慢着点儿走”のように表現する場合は、未来の状態で相対的且つ婉曲的な命令表現・依頼表現・催促表現となっている。このように、“着”は現在の状態や未来の状態に対していずれも描写の機能を果たすことができる。

3. 4. 1. <テイル>

<テイル>はその構成からも分かるように、「形容詞+テイル」という構造は構成できない¹³⁾。日本語の形容詞・形容動詞はいずれも決まった形で用いられ、活用もあるため、「形容詞・形容動詞の連用形+テイル」という構造は存在しない。<テイル>は形容詞・形容動詞を捉える文法的機能を有しておらず、動詞だけしか捉えることができない。

- (25) a ?彼は私より十センチくらい背が高くなっている。
 b 彼は私より十センチくらい背が高い。
 (26) a ?この靴はその靴よりサイズが一つ大きくなっている。
 b この靴はその靴よりサイズが一つ大きい。

ところが、<テイル>は動詞「する」「なる」を通して形容詞と共起することもある。「彼は最近忙しくしている」「暇より忙しくしているほうがよい」「彼女は楽しくしている」のように、<シテイル>という形で、形容詞・形容動詞を

間接的に捉え、忙しい様子・楽しい様子を描写することができる。ただし、<シテイル>は形容詞によって不自然な感じを受ける場合もある。たとえば、

(27) ??その車はスピードを速くしている。

(28) ??その車はスピードを遅くしている。

などがそれである。

一方、<ナツテイル>という形は変化の持続の様子を表わすため、「彼は最近忙しくなっている」「その車はスピードが速くなっている」などのように表現することができる。

<テイル>は形容詞・形容動詞を直接捉えることができないという点では、“着”と対照的である。日本語では、<テイル>は動詞を捉え、動的状態と静的状態の持続を表現することになり、形容詞・形容動詞を射程に入れることができず、それらとは直接に共起することができないという点では、“着”と区別できる。“着”は形容詞を捉える機能も付与され、共起制限を持っているが、属性の状態も細かに描写することができる。それで、品詞的にはあまり拘らず、広い視野で状態を描写していると言える。それに対し<テイル>は動詞しか捉えることができず、状態描写の機能は、動詞でないと発揮できないという極限性があると考えられる。“着”はまた、

(29) 他身体好着呢¹⁴。(彼の体はとても丈夫だ)

(30) 她挣钱挣得多着呢。(彼女はすごく儲かっている)

のように、誇張的表現に用いることができる。ただ、この場合は“呢”という助詞の助けを借りなくてはならない。もし“呢”が用いられない場合は、“*他身体好着(「(彼の体はとても丈夫だ)の意)」*“她挣钱挣得多着(「(彼女はすごく儲かっている)」の意)」のような表現にすると、“呢”という誇張的感情を表わす助詞は重要な役割を果たしているため、必須的共起語句として用いられなくてはならない。

それに対し、<テイル>はこのような誇張的表現には用いることができない

いため、“着”とは根本的に異なっている。“着”は形容詞を捉えることによって、属性の状態の持続を表現したりある状態の持続を誇張的に強調したりすることができるのに対し、〈テイル〉は属性の状態の持続を表現できず、ある状態の持続を誇張的に表現することもできない。

4. まとめ

両語は動詞を捉え、様々な文法的表現に用いられ、動的状态と静的状態の持続のいずれも描写することができるという点では、共通しているが、共起制限があるのかどうか、属性の状態を表現することができるかどうか、単独で進行中あるいは進行の最中における状態を描写することができるかどうかという点では“着”は〈テイル〉と大きく違っている。

“着”はそれだけでは動的状态と静的状態のいずれも捉えることができないが、他の語句の助けを借りて、多様な状態の持続を描写することができる。独立性を持たず、共起制限を持っているが、多様な状態を捉えるための文法的機能が付与されているため、状態を捉えることの視野が広く、強い描写性を具有している。

〈テイル〉は文法上、独立性が保たれており、それだけで進行中あるいは進行の最中における状態を捉え、その状態の持続を事細かに描写することができる。しかし、感覚的な状態の持続は表現することはできない。また、捉えられる対象としては動詞しか捉えることができず、形容詞や形容動詞による属性の状態の持続を直接描写することはできない。

注

- 1 本研究では中国語の考察語は“ ”、日本語の考察語は〈 〉で示す。例文に挙げられた考察語については下線を引く。以下同じ。
- 2 考察語についての成果は多数あり、ここで一々取り上げる余裕がないので、本研究と関係のある文献だけを紹介する。また、参考文献として挙げられている論文も最小限にした。以下、具体的に述べる時には取り上げるが、ここでは取

り上げないこととする。

- 3 ここに挙げた作例の共起の可否については、中国語は筆者の語感によるものであるが、日本語は日本人話者に実施したアンケート調査の結果によるものである。なお、参考のため、関連の作例に関するデータも取ったので、以下示しておく。参照されたい。
- 4 房玉清(1992)では、“在”“正”“正在”と共起できるかどうかの基準によって、“着”は“着 1”と“着 2”に分類されている。“着 1”は“在”“正”“正在”と共起できないのに対し、“着 2”はそれらと共起できる。“形＋着”は“着 1”の用法だとし、“在”“正”“正在”はその前に加えられないが、文末に“呢”は加えられる。(p455)
- 5 李敏(1998)ではこれらの動詞が持続の状態を表わす動作動詞ではないと指摘している。詳しくは同 pp54～55 を参照されたい。
- 6 李敏(1998)では主語と目的語の置き換えについて述べているが、“着”が用いられないと、センテンスとして不自然になるという点については述べられていない。
- 7 李敏(1998)ではこの種類の動詞からなるセンテンスは“了”と共起した場合は主語と目的語の互換は可能であるが、ただし、受動表現には用いられないと述べている。詳しくは同 pp55～56 を参照されたい。
- 8 刘一之(2001)ではこの用法について詳しく述べている。詳しくは同 pp147～148 を参照されたい。
- 9 刘一之(2001)では、“形容詞＋着”については二つの文型があり、一つは“形容詞＋着”、もう一つは“形容詞＋着＋点儿”である。二つの文型では、“着”はいずれも省略できると述べているが、その意味と用法についてはあまり分析していない (pp129-130)。
- 10 “着”が独立性に欠けていることはこの点からも見られる。
- 11 侯学超(1999)では“形容詞＋着＋数量”について、程度が深まることを表わす。そして、北方方言の話し言葉に用いられるとし、“着”は命令文に用いられ、ある状態の保持を要求することを表わす。そして例文として、“快着点儿/小声点儿，别把他吓着！”(p738)と記述している。
- 12 《现代汉语八百词》(1984)では、“形容詞＋着”については次のように記述されている。

5、形+着+数量：穿在身上短着—大截|他比我高着两公分呢。

6、動/形+着+点儿：用于命令、提醒等。慢着点儿，别摔了！|机灵着点儿|快着点儿！|光圈小着点儿。(p595)

13 <テイル>と形容詞との関係については、仁田義雄(1982)では言及されてはいるが、特に深く考察されたものではない。詳しくは仁田義雄(1982)を参照されたい。

14 石毓智(2006)では、形容詞の後に“着”が来て、量的語句がとれる。あるいは“呢”を加えることができる。また程度を表わしたり程度の高さを強調したりすることができる。そしてその量的語句と“呢”がなくなると、文は成立しないと述べている。(同 pp19-20)

◎ここに挙げた日本語の例文がセンテンスとして成立するかどうかについて、日本人話者(年令 18 歳~20 歳、いずれも国立大学の在学学生である)にアンケート調査を実施して判定していただいた。

調査の基準は以下の通りである。日本語として非常に自然だと思ふものは<○>、やや不自然な感じがするものの、言わないことはないと思ふものは<?>、日本語としては非常に不自然でほとんど言わないと思ふものは<??>、日本人であれば、絶対誰も言わないと思ふものは<×>と記入するように依頼した。以下それぞれの結果を示す。

1、列車が運行している。

[回答者 49 人： ○45 人 ?4 人 ??人 ×0 人]

2、病状が悪化している。

[回答者 49 人： ○49 人 ?0 人 ??0 人 ×0 人]

3、街道には朝の霧が立ち込めている。

[回答者 49 人： ○45 人 ?3 人 ??1 人 ×0 人]

4、朝の霧が街道を覆っている。

[回答者 49 人： ○37 人 ?9 人 ??2 人 ×1 人]

5、残雪は峰を包んでいる。

[回答者 49 人： ○36 人 ?10 人 ??3 人 ×0 人]

6、街道が朝の霧に覆われている。

- [回答者 49 人： ○43 人 ?6 人 ??0 人 ×0 人]
- 7、峰は残雪に包まれている。
[回答者 49 人： ○43 人 ?4 人 ??2 人 ×0 人]
- 8、会場には観衆が満ちている。
[回答者 49 人： ○27 人 ?12 人 ??8 人 ×2 人]
- 9、観衆が会場に満ちている。
[回答者 49 人： ○24 人 ?15 人 ??8 人 ×2 人]
- 10、観衆が会場に満ちる。
[回答者 49 人： ○8 人 ?12 人 ??19 人 ×10 人]
- 11、観衆が会場に満ちた。
[回答者 49 人： ○7 人 ?11 人 ??16 人 ×15 人]
- 12、このマンションは住んでいて気持ちがいいですか。
[回答者 49 人： ○16 人 ?23 人 ??7 人 ×3 人]
- 13、このマンションは住み心地がいいですか。
[回答者 49 人： ○48 人 ?1 人 ??0 人 ×0 人]
- 14、この服は着ていて気持ちがよい。
[回答者 49 人： ○12 人 ?30 人 ??6 人 ×1 人]
- 15、この服は着心地がよい。
[回答者 49 人： ○49 人 ?0 人 ??0 人 ×0 人]
- 16、その車は乗っていて気持ちがよい。
[回答者 49 人： ○15 人 ?19 人 ??13 人 ×2 人]
- 17、その車は乗り心地がよい。
[回答者 49 人： ○49 人 ?0 人 ??0 人 ×0 人]
- 18、このベッドは寝ていて気持ちがよい。
[回答者 49 人： ○21 人 ?22 人 ??5 人 ×1 人]
- 19、このベッドは寝心地がよい。
[回答者 49 人： ○49 人 ?0 人 ??0 人 ×0 人]
- 20、言うのはたやすいが、行なうのは大変だ。
[回答者 49 人： ○46 人 ?3 人 ??0 人 ×0 人]
- 21、言っているのはたやすいが、行なっているのは大変だ。

- [回答者 49 人： ○1 人 ?7 人 ??20 人 ×21 人]
- 22、彼は僕より十センチ背が高い。
[回答者 49 人： ○48 人 ?1 人 ??0 人 ×0 人]
- 23、彼は僕より十センチ背が高くなっている。
[回答者 47 人： ○6 人 ?18 ??13 人 ×10 人]
- 24、この靴はその靴よりサイズが一つ大きい。
[回答者 49 人： ○44 人 ?4 人 ??0 人 ×1 人]
- 25、この靴はその靴よりサイズが一つ大きくなっている。
[回答者 47 人： ○15 人 ?15 人 ??11 人 ×6 人]
- 26、彼は最近忙しくなっている。
[回答者 49 人： ○15 人 ?15 人 ??13 人 ×6 人]
- 27、彼は最近忙しくしている。
[回答者 49 人： ○24 人 ?17 人 ??7 人 ×1 人]
- 28、暇より忙しくしているほうがよい。
[回答者 49 人： ○32 人 ?17 人 ??0 人 ×0 人]
- 29、彼女は楽しくなっている。
[回答者 49 人： ○18 人 ?15 人 ??12 人 ×4 人]
- 30、彼女は楽しくしている。
[回答者 49 人： ○34 人 ?12 人 ??3 人 ×0 人]
- 31、その車はスピードが速くなっている。
[回答者 49 人： ○31 人 ?12 人 ??6 人 ×0 人]
- 32、その車はスピードを速くしている。
[回答者 49 人： ○8 人 ?14 人 ??13 人 ×14 人]
- 33、その車はスピードを速めている。
[回答者 47 人： ○23 人 ?13 人 ??7 人 ×4 人]
- 34、その車はスピードを落としている。
[回答者 47 人： ○42 人 ?4 人 ??1 人 ×0 人]
- 35、知らない顔をする。
[回答者 49 人： ○46 人 ?3 人 ??0 人 ×0 人]
- 36、知らない顔をしている。

[回答者 49 人：○45 人 ?2 人 ??1 人 ×1 人]

37、知っている顔をしている。

[回答者 49 人：○14 人 ?17 人 ??6 人 ×12 人]

38、知らない顔をしている。

[回答者 49 人：○3 人 ?14 人 ??14 人 ×18 人]

39、知った顔をしている。

[回答者 49 人：○35 人 ?9 人 ??5 人 ×0 人]

参考文献

中国語

北京大学中文系 1955・1957 级语言班编(1982)《现代汉语虚词例释》商务印书馆

戴耀晶(1997)《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社

房玉清(1992)《实用汉语语法》北京语言学院出版社

侯学超(1999)《现代汉语虚词词典》北京大学出版社

金立鑫(2004)「“着”“了”“过”时体意义的对立及其句法条件」《第七届国际汉语教学讨论会论文集》北京大学出版社

李敏(1998)「现代汉语主宾可互易句的考察」《语言教学与研究》第四期

刘一之(2001)《北京话中的“着”(zhe)字新探》北京大学出版社

吕叔湘主编(1984)《现代汉语八百词》商务印书馆

石毓智(2006)「论汉语的进行体范畴」《汉语学习》第三期

王学群(2007)『中国語の“V着”に関する研究』白帝社

张黎(2012)《汉语意合语法研究——基于认知类型和语言逻辑的建构》白帝社

日本語

奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育大学国語国文』8

金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房

- 工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号
- 寺村秀夫(1982・2003)『日本語のシンタクスと意味』IIくろしお出版
- 中島孝幸(1999)「結果を表す構文について：テイルとラレテイル」『三重大学日本語学文学』10号
- 仁田義雄(1982)「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日本語学』1巻2号
- 吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 吉川妙子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房

謝辞：本研究の日本語の表現については、愛媛大学元教授の菊川國夫先生に御指導・御批判を頂きました。ここに深く感謝の意を表する次第です。